

平成27年2月17日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 芦谷 英夫 印



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 平成27年2月11日（水・祝）
- 2、研修内容 「地方創生フォーラム～地方が変わる、日本が変わる～」
- 3、研 修 先 岡山市 ピュアリティまきび
- 4、調査経費 浜田駅⇒岡山駅⇒浜田駅（高速バス・新幹線利用）
高速バス代・新幹線代（往復）16,340円
- 5、調査研究活動の概要
別紙のとおり



「地方創生フォーラム～地方が変わる、日本が変わる～」

平成27年2月17日

- 1 日 時 平成27年2月11日（水・祝）13時30分～15時40分
- 2 場 所 岡山市
- 3 内 容

- ① フォーラムは内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が主催したもので約500人が参加し、フォーラムは全国9か所で開かれている。平将明内閣府副大臣がコーディネータを務め、5人のパネリストから様々な報告や提案。岡山県西粟倉森の学校の牧大介代表取締役は林業を中心に地域づくりに挑んでおり、西粟倉村の社会増がプラス5人になったことを紹介、広島県三次市の平田観光農園の平田真一代表取締役は日本の観光農園のパイオニアで、外国人観光客もあり年間16万人を受け入れ。山口県周防大島町瀬戸内ジャムズガーデンの松嶋匡史代表取締役は、1ターンしてジャムの製造・加工・販売などを手がけ、鳥取県智頭町森のようちえんの西村早栄子理事長は預かり型保育に取り組み、山村を舞台に生きる力を育む保育方針に共感した東京・大阪・愛知などから1ターンする世帯も多いとのこと。大田市の中村ブレイスの中村俊郎代表取締役社長は40年以上前、地元大森町で義肢装具の会社を創業し、いまでは世界から感謝の手紙が届く会社として有名。
- ② パネリストからは、『1 多様な取り組みがあれば人が寄り、いいもの本物には人は来る、ネットワークづくりを行い、人のつながりは地域資源となり、つながりから新しいものができる。2 どう若い人を呼び込み定着させるか、それには夢が実現できるか否かが重要である、優秀な若い人が地方へ来る仕掛けを作る、人をどう育てるか、若い人やよそ者を育て上げる土壌をつくり、雰囲気づくりを行う、地域や行政が若い人を育てることをする。3 いきいきと仕事する、仕事をする生きる喜びがある、4 婚活にはお節介おばちゃんをつくる、婚活や定住などの取り組みは市町村を超えた流域や広域でやる、5 地域おこし協力隊は起業家予備軍であり、地域活性化の可能性を見つけ出す役割があり、行政はそのように接し支援し任せる態勢をつくる、田舎での起業がカッコ良いというトレンドをつくる、6 地方の給料では子どもが都会の大学へ行けない、給料の引き上げや地元定住への奨学金制度が必要である、7 地域の価値をどう見つけるか、そこに住んで試行錯誤しながら見つけ出す、そのプロセスから思いもつかないもの、力が出るもの、資源ができる、捨てていたもの（レモンの葉・大きすぎるイワシ）でも資源となる、8 よそ者の目が価値を生む、よそ者は地元の人が当たり前で見逃していたものに気づき発見する、民間は常に新しいチャレンジをしている、市民や民間は行政依存体質から脱却する』などの提言や意見が出された。キーワードは『若者 よそ者 本気者』か。

4 所 感

- ① 地方創生の検討組織として、産行学金労住などが参画することが求められており、これまでの行政の既成概念を離れ、地域の資源、人材、新しい発見や切り口など地域総動員の取り組みが必要である。
- ② 浜田市では自治区事業として個性ある地域づくりを進めており、いわば地方創生の先駆けとして住みよい集落づくり事業、定住促進住宅建築費等補助事業、UIターンのための産業体験事業などに取り組んでおり、これを地方創生のメニューに磨き上げる必要がある。
- ③ 入込み人口の増加などを進めるため、プレミアム商品券などが検討されているが、広島市場、県立大学、国際交流や国際貿易港、矯正施設など外部に目を向けた、浜田市の特色を前面に出したプレミアム商品券の発想が必要である。 一以上一